ふじのくに県民クラブ

令和５年新春号

静岡県議会レポート

県庁内 控室　静岡市葵区追手町９－６　TEL０５４－２２１－３５１０
浜松市西区入野町９８６０－１　TEL０５３－４４０－７１００

浜松市西区　田口　章

創ろう！元気な静岡県

昨年はロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮の挑発行為など平和を脅かす蛮行が相次ぎました。

またコロナ禍で傷ついた経済に追い打ちをかけるように物価高が私たちの生活や事業活動を襲い、県も対応に追われました。

さらに気候変動によるとみられる豪雨災害も相次ぎ、防災・減災対策の強化と地球温暖化防止対策の重要性をあらためて痛感しました。

引き続き安全・安心な生活の確保を第一に進めてまいります。

元旦に行われた入野地区恒例の自主防災隊による出初式では、佐鳴湖に美しい虹が描かれました。

2023 年がみなさまにとってより良い年になりますようお祈りいたします。

◎基本計画策定は夏頃までに（篠原地区野球場）

地域活性化の起爆剤として期待される遠州灘海浜公園（篠原地区）の野球場について、県は年度内に予定していた基本計画策定を夏頃まで先送りすることを表明しました。これまでの議論ではアカウミガメなど環境への配慮が必要と考えられ、ドームタイプかナイター照明のない野球場か、という検討状況となっています。詳しくは右の二次元コードから「SPARK NEWS18 号」をご覧ください。

浜松市や浜松市議会、浜松市自治会連合会、地元経済界は「新野球場建設促進期成同盟会」を結成し、あらためて２万２千人（草薙球場）規模のドーム球場を県に要望しました。

地域活性化につながる施設になるよう、官民連携を進めコスト縮減や利活用促進などに取り組んでいきます。

創ろう!元気な浜松＆静岡県

田口 章 は持ち前のフットワークで、元気いっぱい活動しています。日常の活動は、ホームページやブログでも報告しています。インターネットがご利用できる方はぜひご覧ください。

田口章 で 検 索

◎一歩前進、堀留川の治水対策

【2022 年 12 月の状況。上部に「操作室」が設置されました】

堀留川流域では過去、昭和 49(1974)年(床上 114 戸、床下 1168 戸)、昭和 50 年(床上 251 戸、床下 2438 戸)に大規模な洪水(外水氾濫)被害が発生しています。その後、河川改修などにより洪水は起きていませんが、毎年のように「内水氾濫」による浸水被害が続いています。

「内水氾濫」は堀留川が増水することで、そこに流れこむべき水路の水があふれてしまうものです。これは雨天時に貯水機能を果たしていた農地が、地域が開発されたことにより減ったことや、街路整備により地中に浸透する雨水が減り水路に流れ込む量が増えたこと、また近年の豪雨の多発などが主な原因とされています。

【昨年 10 月、自治会長による視察】

このため平成 20(2008)年、「堀留川を考える住民会議」を設置し、地域住民が主体的に治水対策について研究し、県・市に河川改修や貯水施設の設置等を提言しました。当時、浜松市議会議員になったばかりの私もこの会に参加しました。

その後、平成 23(2011)年度に「堀留川地域懇談会」を設置し、県や市が示す治水対策案を住民で検証し、河川拡幅などにより豪雨時の流下水量を増やし内水氾濫を防止する整備計画原案が固まり、行政手続きを経て、平成 29(2017)年度から河川改修事業がスタートしました。

改修事業は下流から進められており、新川合流部から蜆塚排水路までの 2.3 ㎞区間を、6 つの「橋」を目安に工区を分けて実施しています。現在は、新川の合流部から「明光(みょうこう)橋」までの区間で工事が行われており、すでに合流部には高さ約 14.5m、幅約 42m の巨大な水門が設置され、今後、捷水路(放水路)を掘る工事が予定されています。

「明光橋」付近から上流部は、今後下流域から拡幅工事が行われる予定で、現在の川幅約 30m を 62m まで広げます。まずは土地を提供していただくみなさんとの合意が不可欠です。現在は「柏原(かしわばら)橋」までの区間で検討が進められていますが、工事着手は「明光橋」までが完了した後となります。また「明光橋」の架け替え工事も必要になりますが、道路と橋の所管は浜松市なので市との連携も重要になります。

全体の完成にはまだ 20 年以上かかる見込みですが、上島柏原線の「田端橋」、入野小学校やスズキ本社に近い「新川橋」の架け替えは、交通量も多く調整が課題になりそうです。

地元に住む県議会議員として、地域住民のみなさまの安全・安心確保のために少しでも早く実現するよう取り組んでまいります。